



うだるような暑さの中
水戸駅南口で定例の訴え!

ロシアによるウクライナ侵略から1年半

《県平和委員会》

ロシアによるウクライナ侵略から1年半となった8月24日(木)、水戸駅南口において参加者2人で一日も早い戦争終結を求めました。この日の水戸市の最高気温は37度。うだるような暑さの中でのスピーチは以下の通りです。

「昨年2月24日にはじまった、ロシアによるウクライナ侵略戦争は、本日で1年半となり、長期化しています。現時点では、ロシアによる停戦と完全撤退は、見通しがつきません。戦争は、いったん火ぶたが切られると、終結は困難です。アメリカのニューヨークタイムズは、ロシア、ウクライナ両国で50万人以上の死傷者が出ていると発表しています。水戸市の人口は、約27万人。戦争の惨禍によって、50万人もの人生が終わり、戦争の後遺症などによって苦難の人生を歩まなければなりません。

ウクライナ人口は4,300万人、国外に避難した人は約620万人、国内に避難した人は約510万人。4人に1人が戦争の影響を受けています。そして1,800万人が水や食料、日用品、医療

提供などの人道支援を必要としています。一日も早く、ロシアによるウクライナ侵略を終わらせなければなりません。

特に、ロシアのプーチン大統領が核兵器使用による脅しをくり返しています。唯一の戦争被曝国である日本政府は、核兵器禁止条約に署名・批准し、人類と共存できない核兵器を廃絶する先頭に立つべきです。軍事大国で無法国家であるアメリカに追随し、中国や北朝鮮を仮想敵国として、大規模な軍事演習をくり返している場合ではありません。日本政府がおこなうべきでは、この戦争を終わらせるために、仲介外交に徹すべきです。」

またこの日、8月24日は、福島第一原発の汚染水放出を開始するとしており、「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」と言ってきたことに反する「海洋放出を中止せよ」と訴えました。



沖縄の苦難は、沖縄戦・そして祖国復帰から現在までも続いている

守谷平和の会

守谷平和の会・戦争と平和パネル展

今回の守谷平和パネル展は、沖縄について太平洋戦争末期から戦後、本土復帰、そして現在へと苦難の歴史であったことを展示しました。テーマを沖縄「終わらない苦難の歴史を」と題して、8月8日(月)から20日(日)までパネル展示しました。

まず、沖縄の苦難の始まりは、戦争末期にアメリカ軍による襲撃で24万人の命が奪われ、県民の4人に1人が犠牲者となりました。日本は戦争に負けました。沖縄は戦後アメリカの統治下に置かれ、米軍基地があるがゆえに県民への重圧と負担がかかりました。1972年に本土復帰をしたものの日米安保条

約と日米地位協定により米軍基地が残され、さまざまな事件、事故、飛行機墜落事故、米兵による女性への強姦、殺害などで苦しめられました。そして今も沖縄は、米軍・自衛隊の軍事要塞にされ、再び戦場にされる危険が強まっています。

すでに米軍の戦略に呼応して自衛隊の対艦対空ミサイル部隊が奄美大島、宮古島、石垣島に配備され沖縄本島にも配備予定です。また、県民が反対する辺野古基地建設を押し切り基地建設を強行しています。

パネル展を見てもらい、沖縄の過去、現在、未来について考えてもらいたいと思いました。《守谷平和の会 齋藤 哲》

「平和パネル展」と高校生の「朗読劇」で130人の来訪者!

荃崎平和の会

つくば高校の公演、荃崎高校や市内中学校の支援を受けて

荃崎平和の会は、8月10日から14日の4日間、「戦争と平和パネル展」を開催しました。4日間で130人(受付で記名)の来場者がありました。期間中の8月12日には、つくば高校の生徒で結成する「サラダの会」の朗読劇「ヒロシマ・ナガサキ2023」の公演も一緒に行いました。この日は約60名の来場者がありました。今年のパネル展は、つくば高校の生徒の朗読劇と協力するという、今までにない取り組みになりました。

荃崎平和の会では、事前に公演に出演している生徒の感想文を読み、荃崎地域にある荃崎高校と2つの中学校に、協力を依頼するために訪問しました。

荃崎高校では全生徒分のチラシを受け取ってもらい、2つの中学校では電子メールで全校生徒の父兄や生徒にチラシ

の内容を発信してもらいました。

断られると思って訪問したのですがどの学校も協力的に対応してくれ、私たちは感動を覚えて帰ってきました。また今回は、知り合いやサークルを通じた知人にチラシを依頼し広めて貰う事もできました。参加していただいた人の中には、「〇〇さんから話をきいて来ました」と言う方も多くいました。今回の取り組みは、平和パネル展と同時に、高校生の公演もあったため、多くの人に参加してくれたのだと考えています。

荃崎平和の会は平和展などを継続して取り組んでいます。しかしこしばらくは、このようにたくさんの方々の来場する場面から遠ざかっていました。今回は特に参加者が多かったことには感動しました。会員の皆さん、高校や中学校の方々のご協力ありがとうございました。《荃崎平和の会 軽部英司》

「はみだし」(三ツム) 日本国憲法を全体的に改定しない政権が長く続いている。公務員は全体的に改定しない政権のためである。一部は改定している。と、思いませんか? 六三郎

「Stop!東海第二原発の再稼働 茨城大集会」

屋内集会&デモ

東京や関東近県から多数の参加



8月26日(土)、午後1時30分から、水戸市北口駿優会館8階ホールで、東海第二原発再稼働反対の集会が開催されました。東京から大型バスや自家用車、電車等で70人、埼玉を始め関東近県からも多数の参加があり、全体で600人余になりました。

集会では、元東海村村長の村上達也さんなど6人が、それぞれの立場から「東海第二原発の再稼働は許されない」と訴えました。東海第二原発差し止め裁判弁護団の河合弘之弁護士は、東京高裁での第1回口頭弁論で「水戸地裁判決の維持を求めた」と報告。また「再稼働を推進する勢力でも、再稼働の危険性はわかっている。それでもやめないのは、老朽原発でも動かせば大金が入ってくるからだ」「関係者は『今だ

け、金だけ、自分だけ』

『自分が担当している期間に事故が起こらなければ・・・』の状態になっている。」とその理不尽を告発しました。また、原子力資料情報室の松久保肇氏が「原発推進と老朽原発再稼働は危険」の講演を行いました。



参加者は集会後に南町自由広場までデモ行進。2台の宣伝車で、「東海第二原発の再稼働反対」「汚染水を海に流すな」など、市民に訴えました。

「2023原爆写真展IN大洗」広報や町内放送で周知、新聞に折り込み!

寄稿

大洗町核兵器に反対し平和を守る会 高橋

基町高校美術部制作「原爆の絵」を展示!

大洗町核兵器に反対し平和を守る会では、8月10日(木)から12日(土)まで、大洗町と共催で「原爆写真展IN大洗」を開催しました。

今回は、広島の高校生が被爆者から聞き取って描いた絵を中心に展示することとし、「原爆と人間」の写真パネルは原爆の構造、熱線・爆風・放射能の範囲、広島・長崎の被爆後写真など18枚にとどめました。また、パソコンで基町高校美術部の193枚の絵が見られるコーナーも設けました。



昨年同様に、町の広報(週報)にお知らせを載せてもらい、町内放送でも周知してもらいました。また、会独自にお知らせチラシを新聞折り込みしました。

高校生が描いた絵を中心に展示することから、大洗高校にお知らせチラシを届け校長先生と懇談しました。町の高校生会にも声をかけ、4名の方が来場され感想文を書いていってくれました。特設コーナーのパソコンで全部の絵を見て、感想を記していられる人もありました。

また、町内の戦争体験者の家族の方が、水筒、帽子、遺族会名簿などの遺品を持ってこられたので、最終日まで展示してもらいました。3日間で約78人の来場者があり、被爆者援護募金が6,650円寄せられました。被爆者援護募金箱は役場庁舎カウンターにも8月いっぱい置かれています。

原水爆禁止世界大会分科会・長崎

「佐世保基地調査行動」に参加して

茨城厚生連労働組合高萩支部 青山幸恵

最初にガイドの方が「帰るまでに何かしら感じて教えて欲しい」と仰っていました。お話しからは、日米地位協定の日本の立場の弱さ、莫大な額の思いやり予算、誰のための基地なのか。人殺しの兵器があたり前に近くにある日常への憤りを強く感じました。台風の為か普段よりも軍艦の数は非常に少ないとのことでしたが、見慣れないグレーの大きな艦船には威圧感をおぼえたことも印象的でした。

駐留している米兵が「日本人を守る為にいるわけじゃな

い」とコメントしたとの言葉にはショックを受けました。大会全体でも平和の大変さを訴えています。軍備費を増やすことが国民の幸せに結びつくとは考えられません。国民を守るのが自衛隊の役割ならば闘いの練習ではなく、救助の練習をして欲しい。そうできる政治力を政府はもってほしいと強く感じました。(写真:折り鶴で作られたメッセージ)



訂正 前号での「第1回常任理事会のお知らせ」は「第1回理事会のお知らせ」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

今年の7月は世界的に観測史上最も暑い月だった。日照りに洪水、山火事も大発生。気候危機は待った無しの大問題。途方に暮れるけど、まずは自分でできることを。そうだ、燃やすゴミを減らしてCO2を減らそう! (編集部)